

医療安全に関する標語の管理者賞・病院局長賞が決定しました

医療安全週間の取組として、各病院・診療所で医療安全に関する標語を募集し、各院で入賞した作品から管理者賞と病院局長賞を選定しました。

管理者賞

安全は 基本順守の 積み重ね

ふくしま医療センターこころの杜 看護部

管理者からひとこと

医療の安全を確保するためには、可能な限りヒューマンエラー誘発要因を少なくするとともに、ヒューマンエラー防護壁を多重にすることが必要である。このため、基本順守の積み重ねはヒューマンエラーのリスクを下げる基本的な手段の一つである。

病院局長賞

目と指と 声で確認 ひとつずつ

ふたば医療センター附属病院 看護部

病院局長からひとこと

私たちは、信頼される病院となるよう安全で安心な医療を提供すべく行動しなければなりません。しかし、そのために最も大切で基本的な動作をおろそかにしがち。自戒を込めて、「目（視）・指（差）・声（出）で確認」。改めて自分自身の行動を振り返り、早速実践。

双葉地域における中核的病院のあり方検討会議を立ち上げました

原発事故の影響で休止中の県立大野病院（大熊町）の後継となる中核的病院（以下「新病院」という。）について検討するため、昨年8月に井出副知事を議長とした有識者会議を立ち上げました。

この会議で新病院の役割や機能などを検討した上で、今年9月頃までに新病院の整備基本構想を取りまとめることとしています。

これまでに開催した2度の会議では、新病院を大熊町内に設置することや、双葉地域の中核的な病院として「地域に密着し、連携の核となる病院」「地域の発展に貢献し、医療従事者に魅力ある病院」の2本柱をコンセプトにすることなどを決定しました。

今後は、双葉地域の医療ニーズ等を考慮しながら、診療科や病床数などを検討する予定です。

また、浪江町に整備予定の福島国際研究教育機構（F-REI（エフレイ））との連携を視野に、地域医療のみならず、地域の発展に寄与できる病院を目指してまいります。



県立病院看護部現任教育要領を改訂しました

この要領は、県立病院（診療所）の看護師が、県職員として高い倫理観を持って行動するとともに、患者などに質の高い看護サービスを提供できるよう、各施設及び病院局が連携して展開する現任教育について必要な事項をまとめたものです。

平成10年3月に初めて作成されてから、社会情勢の変化等に応じて適宜改訂されており、今回で7回目の改訂となりました。

今回の改訂では、令和2年度に運用を開始した「県立病院クリニカルラダー」に係る修正を中心に行いました。今後も効果的な現任教育の一助となるよう更なる内容の充実を図ってまいります。

※デスクネットの病院局DBに掲載しています。

ふくしま医療センターこころの杜 児童思春期医療の状況

ふくしま医療センターこころの杜が昨年10月12日に開院しました。新たに整備した児童思春期病棟や、更に充実した児童思春期外来の患者状況について紹介します。

入院

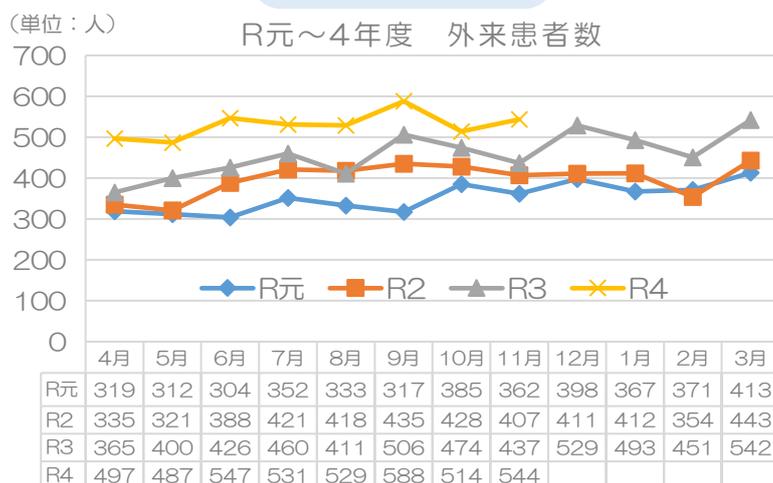


学習の遅れに対する不安の解消や退院後の在籍校復帰支援のため、教室や学習室、Wi-Fiを整備しています。

今後は、これらを活用し、学習ボランティアなどによる学習支援を行う予定です。



外来



ふくしまモデルに基づき、相談から初診までの間に多職種の医療スタッフによる支援を行っています。

今後は、より気軽に受診ができるよう、令和5年度中に入り口・診察室・会計を一般外来から完全分離する予定です。

ふくしま医療センターこころの杜のホームページが新しくなりました。児童思春期医療の詳細や先進的な取組などが紹介されていますので、ぜひご覧ください。



寄贈絵画紹介

昨年9月23日のふくしま医療センターこころの杜開院式において、本宮市出身の画家、冬室昌宏様（写真中央）から絵画を寄贈いただきました。

寄贈絵画は、院内1階外来待合室にて展示しています。

寄贈絵画「夏へ」▶

